

法師功德品四箇の大事

第一 法師功德の事

御義口伝に云はく、法師とは五種の法師なり、功德とは六根清淨の果報なり。所詮今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は六根清淨なり。されば妙法蓮華經の法の師と成りて大きな徳有るなり。功も幸と云ふ事なり。又は悪を滅するを功と云ひ、善を生ずるを徳と云ふなり。功德とは即身成仏なり、又六根清淨なり。法華經の説の文の如く修行するを六根清淨と意得べきなり云云。

第二 六根清淨の事

御義口伝に云はく、眼の功德とは、法華不信の者は無間に墮在し、信ずる者は成仏なりと見るを以て眼の功德とするなり。法華經を持ち奉る処に眼の八百の功德を得るなり。眼とは法華經なり。此の大乗經典は諸仏の眼目と云へり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は眼の功德を得るなり云云。耳鼻舌身意又々此くの如きなり云云。

第三 又如淨明鏡の事

御義口伝に云はく、法華經に鏡の譬へを説く事此の明文なり。六根清淨の人は瑠璃の明鏡の如く三千世界を見ると云ふ經文なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は明鏡に万像を浮かぶるが如く知見するなり。此の明鏡とは法華經なり、別しては宝塔品なり。又は我が一心の明鏡なり。所詮瑠璃と明鏡との二つの譬へを説かれたり。身根清淨の下なり。色心不二なれば何れも清淨の徳分なり。淨とは不淨に対して淨と云ふなり、明とは無明に対して明と説くなり、鏡とは一心なり。淨は仮諦、明は空諦、鏡は中道なり。悉見諸色像の悉は十界なり。所詮淨明鏡とは色心の二法妙法蓮華經の体なり。淨明鏡とは信心なり云云。又三千大千世界を知見するとは三世間の事なり。

第四 是人持此經 安住希有地の事

御義口伝に云はく、是人とは日本国の一切衆生の中には法華の行者なり。希有地とは寿量品の事理の顯本を指すなり。是を又分別品に仏説希有法と説かれたり。別しては南無妙法蓮華經なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者の希有の地とは、末法弘經の明鏡たる本尊なり。総じて此の品の六根清淨の功德は十信相似即なり。対告衆の常精進菩薩は十信の第三信と云へり。然りと雖も末法に於て法華經の行者を指して常精進菩薩と意得べきなり。此の經の持者は是則精進の故なり。